

2021 年度 特別回愛知崖ユクノキ 研修報告書

滋賀森林インストラクター会

1. 日時・研修場所 2021 年 6 月 12 日(土) 東近江市永源寺町／愛知崖
※ 小西研修担当 事後確認 6 月 20 日(日)
2. 参加者 佐々木、小西、関澤、橋木、西、森上、高橋(報告) 7 名
3. 行 程 越溪橋から愛知川左岸沿いに
道の駅「溪流の里」まで



観察コース（赤の点線）

<== コースはすべてアスファルト舗装で
高低差もなく歩きやすい

愛知崖の森は多種多様な樹木が観察でき、昨年同時期にこの地で開催した 2020 年度第 2 回研修会では、小西研修担当から 49 科 120 種の樹木が報告されています。草本も含めると 200 種を越える植物が育成していると小西さんは推定されています。今回も様々な樹木や草本が観察され、また、植物を食む昆虫類なども多く、生物の多様性を支える森の働きが窺える森でした。残念ながらユクノキの開花を観察できませんでしたが、参加者からは時季を変えて定例研修に追加してはどうかという意見もありました。

観察コースは愛知川左岸の斜面の川面から 10m ほどの高さ通っていて、崖の森を上下ふたつに分け、コース沿いは林縁の様相を呈してマント群落の植生を思わせます。ヌルデ、タラノキ、ウツギ、キブシなどの低木やイワガラミ、テイカカズラ、サルナシやブドウ科などのツル植物、キイチゴ類やジャケツイバラなどの有刺植物といった林縁、マント群落を彩る樹種が見られました。

この報告では、つる植物と有刺植物、そして森に棲む虫たちに焦点を当てようと思います。愛知崖の森を特徴づける高木類は小西さんがまとめられた昨年の「第 2 回研修会報告書」(滋賀会 HP に掲載)を参照してください。



【つる植物・有刺植物】

つる植物は日光を得るために高く伸びる手段として、他の樹木や物体を利用しています。自分の茎(つる)を太く丈夫にして身体を支える必要がないため、コストを茎を高く伸ばすことと葉を茂らせ光合成生産を増やすことに集中できます。これは、競争の激しい環境で光を獲得するのに有利に働きます。何に重点を置き、何を捨てるかという人生の生き方の参考になります。ホストの樹木が枯死した場合に巻き添えになる覚悟も含め潔い選択です。

つる植物が高く上る方法には、つるで巻きついたり、付着根ではり着いたりと様々ですが、棘でひっかける方法もあります。林縁に有刺植物が多いのはつる植物が一因でしょうか。



ジャケツイバラ(蛇結茨)



豆果



鋭い棘

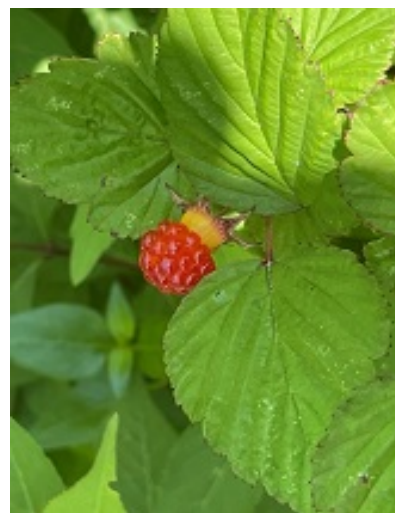
観察コースの前半に多数繁茂していました。気づかずその茂みに入ると怪我をする鋭い棘です。



エビガライチゴ



ニガイチゴ



クサイチゴ

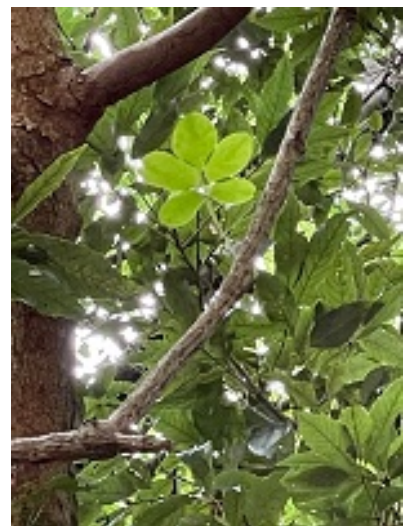
棘のある植物は他にも、カラスザンショウ、サンショウ、タラノキ、サルトリイバラ、ノイバラなどを観察できました。



サンカクズル



ノブドウ



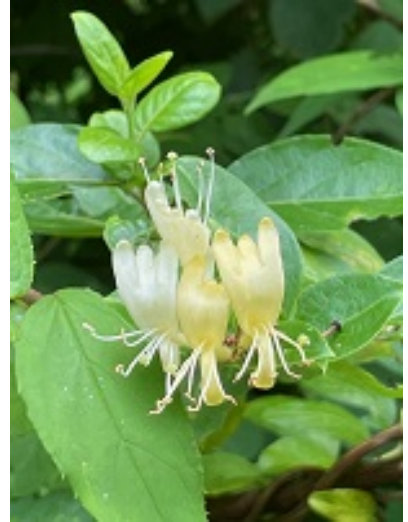
アケビ



フジの捻じれた太い幹

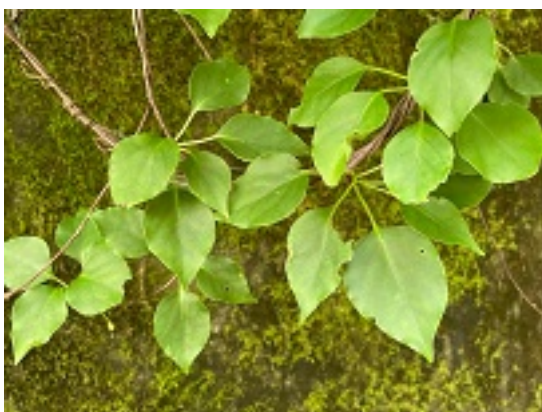


テイカカズラ



スイカズラ

テイカカズラは樹上に伸びた茎の葉(左)と地面を這う茎に着く葉(右)は違う。光合成を効率よくするために日光を浴びる樹上と陰になる林床で形態を変えているのだろうか。



マツブサ



ウラジロマタタビ



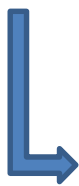
ハンショウズル実



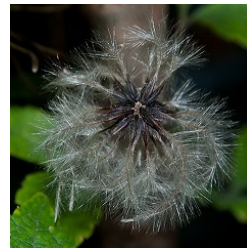
ハンショウズル花



花の断面



実に毛が生えてくる



成熟した実



綿毛に覆われた種



イタビカズラ（花囊）



完熟した実の断面

今回の研修の収穫は、多くのつる植物を知り得たことです。まず、マツブサ。樹皮が松に似て、青黒い果実がブドウの房のように垂れ下がるので松房。サネカズラの近縁種とのこと。サネカズラがマツブサ科なのを初めて知りました。

ウラジロマタタビは私の持っている小図鑑には載っていません。サルナシにそっくりですが、その名の通り葉の裏が白い。ネット調べるとサルナシの変種だそうです。

ハンショウズルも初めて。キンポウゲ科センニンソウ属。花の形が半鐘に似ているので名付けられたそうですが、センニンソウの花には全く似ていない。種になるとセンニンソウに似ています。

イタビカズラも小図鑑に載ってませんでした。イタビとはイヌビワの別名。ビワと名が付いているがクワ科イチジク属。イタビカズラもイヌビワやイチジクのような花や実を着けます。イチジク属にはつる植物が多く、イタビカズラの近縁にオオイタビやヒメイタビ、絞め殺し植物として知られる沖縄地方のガジュマルやアコウもイチジク属です。

【愛知崖の虫達の仕業】



虫に食われて葉脈だけになったシダ



穴だらけでレースのような桐の葉



ヤナギハムシ



ヤナギハムシの蛹脱殻



ユクノキの葉裏に着く繭



カマツカの葉裏の虫瘤
タマバエの仲間の仕業



何の虫が巻いたのだろう

【ユクノキの観察】



ユクノキはマメ科
フジキ属の落葉高木。

花が咲くのは3～4
年に一度だそうです。
満開になると枝に雪
が積もった様に見え
るので「雪の木」から
ユクノキと名付けら
れたとのこと。

数年に一度しか開花
しないのと花の期間
が1週間ほどで桜よ
り短いため、花を見
るのが難しい木です。
今回の研修では日程
が少し早かったため
花に出会うことがで
きませんでした。



葉は奇数羽状複葉 小葉が互生



葉柄の付け根に褐色の縮れ毛

【1週間後のユクノキ開花】

1週間後の6/20に小西さんがユクノキの開花を確認され、写真を送っていただいたので、下に掲載します。フジの花のように垂れ下がるのかと思っていましたが、円錐花序を上向きに出しています。なるほど、花が枝葉の上に広がるので、満開になると雪が積もったように見えるのですね。

小西さん、ありがとうございます。



マメ科の花の特徴「蝶形花」